

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 18 年 7 月 20 日 (2006.7.20)

【公表番号】特表 2002-517633(P2002-517633A)

【公表日】平成 14 年 6 月 18 日 (2002.6.18)

【出願番号】特願 2000-553642(P2000-553642)

【国際特許分類】

D 0 3 D 49/62 (2006.01)

【F I】

D 0 3 D 49/62 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 23 日 (2006.5.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 9】上部形鋼 (8、8 2) に配置されている上方部分を有すると共に、また下部形鋼 (2 2、6 2、7 6、8 3) に配置されている下方部分を有した織りおさ (2 0、6 0、7 2、8 0) のおさ羽 (2 1、3 7、4 1、4 5、5 0、6 1、7 1、8 1) において、下方部分は、形鋼 (2 2、6 2、7 6、8 3) から突出している部分において 6 m m の幅を、また上方部分は、約 4 m m の幅を有していることを特徴とするおさ羽。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

図 7 と 8 に係る実施形態では、おさ羽 6 1 は、上方部分 1 6 から延びた直線状の後面 6 9 を有している。それらの前面領域では、それらは、図 2 に係る実施例に対応して、その説明を参照にして設計されている。下方部分 1 4 は、それでもなおもう一度 2 つの部分 6 6、6 8 に再分されており、それで上部分 6 8 は、形鋼 6 2 の上面 6 3 から部分 6 6 まで先細に成っている。下部分 6 6 は、約 4 m m の幅 6 7 を有している。そこで、これに楔状の部分 6 8 は、なお下部形鋼 6 2 の内部で接続しており、またそれは、部分 1 4 の下部形鋼から突出した部分と共に下部分 6 6 に連結していて、部分 1 4 は、約 6 m m の幅 1 5 を有している。この部分の前面 6 5 は、湾曲した前面 2 8 に移行している。下部分 6 6 の前面は、当り面 3 1 及び上方部分の面 1 3 と一線で延びている。この面に対して、下部形鋼 6 2 の前面は、約 2 m m の間隔を有している。それによって、形鋼 6 2 の幅が従来の形鋼の幅と事実上同じに成っている構造が出来上がっている。下部形鋼は、約 8 m m の幅を有していて、その結果、これを搭載梁 1 2 に固定するために、従来の織りおさの場合と同じ固定手段も、即ち楔 1 0 とネジ 1 1 も使用されることに成る。おさ羽 6 1 を備えた織りおさ 6 0 の当り面 3 1 は、従来のおさ羽に付いた当り面が存在している同じ位置に存在しているので、織りおさ 6 0 は、この織りおさの当り位置がそれで変わることに無しに、従来の織りおさに交換され得る。